

■ 地域の人々から学び、地域の発展に協力していける生徒の育成 (高穂中学校)

1 【活動の趣旨】

本校では、豊富な知識や経験を持つ地域の人々に来校していただき、日頃の学校生活では学べない経験や知識が得られるようにしている。また生徒が地域の活動に参加して人々との交流を深め、関係が深められる地域協働合校事業を進めている。

2 【特徴的な活動内容】

- 『毛筆に親しむ』 8月・9月 (10日間)
対象 1年生
内容 書道家を講師に迎えて芸術的な書について学び、作品作りに取り組んだ。



【毛筆に親しむ】



【美しい学校づくり】

- 『美しい学校づくり』 8月
対象 保護者
内容 保護者の協力を得て、環境整備作業や美化活動に取り組み、学習環境を整えた。

- 『ふれあい広場に参加』 11月
対象 吹奏楽部
内容 志津小学校区のふれあい祭りで演奏を行い、地域の人々と触れ合った。



【ふれあい広場に参加】

- 『畑づくり』 11月～1月
対象 特別支援学級
内容 畑の土づくりから始めて玉ねぎ苗を植え、生産する喜びを感じた。



【畑づくり】

3 【実施に当たっての工夫】

- ・ 事前に講師の方との打ち合わせの時間を持ち、事業のねらいやどんな力を生徒たちにつけさせたいかを伝えるようにしている。
- ・ 新型コロナ感染予防策についての学校の取り組み状況を伝え、十分な予防策を保護者や講師の方にもとっていただいた。

4 【事業の成果】

- ・ コロナ禍中に、十分な対策をとられたうえで、地域のふれあい広場が実施され、吹奏楽部が演奏を披露した。地域の人々と触れあい、地域の一員である自覚につながった。
- ・ 1年生の『毛筆に親しむ』では、ありきたりな書道ではなく、芸術家的な発想によって文字を書くことにより、新たな発見と毛筆に対する親近感をもち、毛筆への興味・関心の向上につながっている。

5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施にむけて】

- ・ コロナ禍ということもあり、多くの事業ができなかった。実施できた事業についても、本来の内容を大幅に縮小したものでしか行えなかった。来年度の事業については、すべての面で新型コロナウイルス感染予防策をしっかりと整えたうえでの実施にしていかなければならない。
- ・ 小学校区のふれあい広場への参加は、地域との交流をはかるうえで大切な事業である。現在は、吹奏楽部だけが参加しているが、他の事業も含めてこのような取り組みができる機会を地域の方と一緒に考え増やしていきたい。